

市長ひとこと特別編 チャタヌーガレポート-後篇-

市は、昨年姉妹都市締結を結んだチャタヌーガ市へ1月9日から14日まで公式訪問団を派遣。訪問団の現地での様子を紹介します！



上/両市の交流に関わった人たちと撮影 右/温かい歓迎に「サンキュー」を何度も

心と心の通い合い

滞在2・3日目はチャタヌーガ市内の視察がメイン。市役所やコマツ米国工場など、さまざまな場所を巡りました。

最も印象深かったのは、27年間にわたり本市の中高生と交流しているCSAS校とCSLA校。校内には、遠野のポスターをはじめ、カップや天狗などが描かれた壁新聞が掲示されており、遠野への愛にあふれていました。アンディー・パーク市長と共に、全校生徒が集まっている大講堂へ。入るとすぐに、割れんばかりの拍手と歓声が鳴り響きました。会場では、本市の中学生派遣団がよさこいソーランを披露(次ページ参照)。渾身のパフォーマンスに、現地の児童・生徒は真剣に見入っていました。

両市の交流に多大な心血を注いでこられたルイーズ・メシッチ先生(遠野名誉親善大使)とも再会。涙を浮かべる先生の手をしっかりと握り、「サンキュー」と何度も伝えてまいりました。

帰国前日には、姉妹都市交流協会のカレン・クレイブル会長をはじめとする市民ボランティアが、手作りでお別れパーティーを企画。パーク市長のご家族も出席してくださり、大変盛り上がりしました。「昨年の遠野での温かい歓迎が、交流の絆をさらに太くしてくれた」と、市民の皆さんから声を掛けられました。片言の英語でのコミュニケーションでしたが、不思議と通じるもので、お互いに笑い、抱き合い、心と心が通い合う時と場でした。

両市の国際交流をさらに盛り上げるため、市は遠野市教育文化振興財団と協力し、職員1名をチャタヌーガ市役所に派遣する予定です。昨年まで遠野で活躍していただいたアレックス・ヒューイさんのように、今度は遠野の職員が現地で活動します。

遠野市長 本田敏秋

2月12日 遠野スタイル総合推進フォーラム

総合力でまちづくりを推進

フォーラムはあえりあ遠野で開催され、市民や高校生ら150人が参加。「遠野スタイルによる産業創成」と題し、岩手大学の小野寺純治特任教授が講演を行ったほか、まちづくりのパネルディスカッションを行いました。小野寺教授は「官民一体の総合力に目覚めれば、地域活性化につながる」と強調しました。



まちづくりについて語る小野寺教授

2月17日 遠野市教育文化振興財団顕賞式

輝かしい功績を表彰

文化やスポーツで功績のあった個人・団体を表彰する同式典はあえりあ遠野で行われ、関係者ら300人が出席。教育文化の振興に顕著な功績が認められ、虫のギャラリー館長の葛西四朗さん(綾織町=88歳=)と本市出身で芥川賞作家の若竹千佐子さん(千葉県在住=63歳=)に遠野市民文化賞が贈られました。



48個人・18団体が表彰を受けました

2月上旬 香港でトップセールスを展開

香港の皆さん、ぜひ遠野へ！

本市と花巻市、平泉町で組織する「花巻・遠野・平泉観光推進協議会」は2月5・6の両日、近年、訪日客が増加している香港でトップセールスを実施しました。本市からは、飛内副市長をはじめ、観光宿泊業者らが参加。現地の旅行会社などを訪れ、花巻・遠野・平泉エリアの観光地としての魅力をPRしました。



花巻・遠野・平泉エリアの魅力を発信

2月3日 遠野市スキー大会・赤羽根雪まつり

遠野の冬を満喫！

市スキー大会と赤羽根雪まつりは上郷町の赤羽根スキー場で開かれ、家族連れのスキー客ら300人が来場しました。スキー大会ではスキーとスノーボードのタイムを競ったほか、雪まつりでは餅まきや抽選会などを実施。当日は大雪に見舞われましたが、来場者は、冬ならではの催しを満喫していました。



餅まきで盛り上がる会場

2月18日 「プロジェクト未来遺産2017」登録証伝達式

日本の原風景を未来に残す

土淵町山口集落は、日本ユネスコ協会が実施する同プロジェクトに選ばれ、サンパークやなどで伝達式が行われました。式典には、関係者ら70人が出席。未来遺産とは、100年後の子どもたちに地域の文化や自然を残し伝えていく活動を登録し応援する制度。今年度は全国で4つのプロジェクトが未来遺産として登録されました。山口集落は日本の原風景であ

る遠野の景観を残すため、市と景観協定を締結。住民が自ら主体となって文化的景観の保全活動を行っていることが評価されました。未来遺産選考委員から山口自治会の厚楽和孝会長(66)に登録証が手渡されると、関係者らは未来遺産への登録を喜び、今後の活動に期待を寄せました。その後、厚楽会長が山口自治会の活動を報告。将来の展望などを熱く語りました。



1_地域住民によって守られている山口の水車小屋 2_日本ユネスコ協会から未来遺産登録証を受け取る厚楽会長



2月20日 市民センター等利用促進に係る「4者連携協定」締結式

人・地域・健康づくりで連携



左から/佐々木孝彦代表取締役(遠野施設管理サービス)、本田市市長、及川増徳理事長(遠野市教育文化振興財団)、樋口邦史代表理事(遠野みらい創りカレッジ)

市は、中心市街地などの主要施設に関連する団体と協力して、施設利用の促進と「人づくり」「地域づくり」「健康づくり」に取り組むための協定を締結しました。締結相手は、(一財)遠野市教育文化振興財団(及川増徳理事長)、(株)遠野施設管理サービス(佐々木孝彦代表取締役)、(一財)遠野みらい創りカレッジ(樋口邦史代表理事)の3団体。締結式はあえりあ遠野で行

われ、関係者ら約30人が出席しました。今後は、相互の職員派遣による人事交流や、東京2020大会を契機とした国際交流の促進、健康スポーツプログラムによる健康づくりの奨励などを連携して実施します。4者は、お互いに情報と課題の共有を図り、それぞれの組織の得意分野を生かした総合力で遠野のまちづくりにつなげていくことを確認しました。